

2017 えがお愛顔つなぐえひめ国体



第72回国民体育大会 君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え



TEAM FUKUOKA

「チーム福岡」福岡県選手団サポートニュース

NEWS

10月10日 Vol.9

第72回国民体育大会 「Team福岡」意地を見せる！

愛顔つなぐえひめ国体 天皇杯9位！ 皇后杯10位！

第72回国民体育大会「2017 愛顔つなぐえひめ国体」は、最終順位を天皇杯9位、皇后杯10位とし、チーム福岡として掲げた目標である、8位以内入賞には惜しくも届かなかった。

選手達は、優勝を目指して力の限りを尽くしてこの熱き10日間を戦い抜いた。会期前競技を含め、各競技が優勝を目指して熱い戦いを繰り広げる中で、各競技の激戦を伝え、チーム福岡として団結して臨むべく発行してきたニュースレターもついに最終号を迎えた。

最終号では、最後の2日間に行われた競技について、振り返りたい。

ボート競技 充実したスタッフによる手厚いサポートが実る！



<競技の様子(手前)>

昨年の国体では競技得点を奪えなかったボート競技。今年は、少年女子ダブルスカルの松永・安部ペアが6位入賞し、9点を獲得した。惜しくも決勝進出を逃した少年女子シングルスカルの松田選手や、成年女子シングルスカルの中川選手も着実に力を付けてきている。

ボート協会は、強化策として、スタッフを充実させ、手厚いサポートを行ってきた。チームをサポートするフィジカルトレーナーの谷口氏は、昨年からは松永選手・安部選手らに、トレーニング指導を実施している。また、タレント修了生の立花麗が指導者資格を取得し、今年から成年女子の監督となったことも大きい。

チームとして機能しているボート協会は、更なる飛躍を目指し、すでに来年以降を見据えている。



<選手とスタッフ>

ボクシング競技 川谷選手 見事優勝を飾る！！



決勝まで順調に駒を進めた川谷選手。対戦相手は東京都。初対戦となる相手だったが、強豪揃いの逆パートを勝ち上がってきており、力を持っている選手であると警戒して臨んだ。

相手のハードパンチを華麗なフットワークとウィービングでかわしながら、的確なパンチをヒットさせる川谷選手。3ラウンドとも集中力を切らさず、常に優位に試合を運び、見事優勝を飾った。

試合後、川谷選手は、「アップの時からよく体が動いていたので自信があった。優勝できてホッとしている。」と語り、大きな仕事を成し遂げ、爽やかな笑顔を見せてくれた。



<賞状を手にする川谷選手>



レスリング競技 5位入賞が続く！！

9日(月)、宇和島市総合体育館においてレスリング競技が開催された。グレコローマンスタイル少年男子120kg級の大黒颯斗選手と、グレコローマンスタイル成年男子98kg級の天野雅之選手がそれぞれ5位入賞を果たした。

大黒選手は、接戦となった2回戦を制し、準々決勝で宮城と対戦。力及ばず、5位入賞となった。大黒選手は「簡単に引手を取らせてしまったので投げられてしまった。大学に進学するので、これからも努力し頑張ります。」と、語った。天野選手は準々決勝で沖縄と対戦。試合中盤にリードを許してそのまま試合終了し、5位入賞が決まった。



＜試合の様子＞

陸上競技 競技別得点8位に躍進！



＜陸上競技選手団＞

最終日に行われた少年男子B3000mにおいて、常に積極的に先頭集団につけていた石田選手が、見事2位でゴール。決勝進出者のほとんどが高校1年生であり、中学3年生の快走に会場が湧いた。これにより、本県陸上競技の得点は81点となり、競技別得点は8位となった。

松隈大治監督は、「例年3月に行ってきた少年種別の合宿を、今年は前倒しして、12月・1月・2月と、3回実施した。これにより、早い段階から強化

できるとともに、選手の意識を高めることができた。」と、今回の躍進の要因を語った。本県には、現中学2年生や高校2年生に逸材が多く、来年度の更なる伸びも期待できる

愛顔つなぐえひめ国体 閉幕！！



10日間におよぶ激戦が繰り広げられた第72回国民体育大会 2017 愛顔つなぐえひめ国体は、10月10をもって閉会した。最終順位は、9位と、目標の8位以内入賞には届かなかったが、前回の13位を上回る成績を残すことができた。昨年から、ボクシングやレスリングなどの女子種目が国体に新規種目として採用された。今年は、新たにビーチバレーが加わり、計7種目となった。今回の国体において、福岡県は、ラグビーで40点、自転車競技で29点、ビーチバレーが15点、ウエイトリフティングが10点、計94点を獲得した。東京都の69点をおさえて、都道府県別で1位となった。

これは、それぞれの競技団体が行っている女子選手への計画的な発掘・育成が功を奏していると言える。

また、女性アスリートの指導者向けの研修会などにも積極的に参加されている競技団体も増え、最新の指導内容や指導方法などを取り入れることができていることも大きいといえるだろう。

【各競技入賞者】 (10月9日・10日終了時点)

男女総合成績 (天皇杯) 全競技終了確定			
順位	都道府県名	得点	昨年度順位
1位	東京	2535	1位
2位	愛媛	2395.5	7位
3位	埼玉	1787.5	3位
4位	大阪	1784	6位
5位	神奈川	1674.5	8位
6位	愛知	1643.5	4位
7位	福井	1588.5	18位
8位	千葉	1531.5	5位
9位	福岡	1415.5	13位
10位	北海道	1287.5	9位
11位	京都	1278.5	12位
12位	兵庫	1237.5	11位
13位	岐阜	1151	30位
14位	岩手	1125	2位
15位	広島	1123.5	14位
16位	岡山	1073.5	15位

競技名	種目	名前	所属	順位
陸上競技	成年女子5000m競歩	藤井 菜々子	北九州市立高等学校	優勝
陸上競技	成年女子走高跳	仲野 春花	早稲田大学	優勝
陸上競技	少年男子Aやり投	平野 竜矢	祐誠高等学校	3位
陸上競技	少年男子共通三段跳	平野 涼太	筑紫高等学校	4位
陸上競技	少年女子B800m	稲田 亜衣	松原中学校	3位
陸上競技	少年男子B3000m	石田 洸介	浅川中学校	2位
ボート	少年女子ダブルスカル	安部・松永	東筑高等学校	6位
ボクシング	少年男子ライトフライ級	川谷 剛史	豊国学園高等学校	優勝
ソフトテニス	少年女子	原口・久保・酒井	中村学園女子高等学校	7位
レスリング	成年男子グレコローマンスタイル98kg級	天野 雅之	中央大学職	5位
レスリング	少年男子グレコローマンスタイル120kg級	大黒 颯斗	三井高等学校	5位
柔道	女子	坪根・鷲崎・都留・安藤・児玉		4位

国体の情報については、大会ホームページ (<http://www.ehimekokutai2017.jp/>) より、ご覧ください。

※Facebook においても情報発信を行っています。「ふくおかスポネット」で検索してご覧ください。

【発信元】福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ推進課 企画情報係